

# 肉用鶏はSG品種、採卵鶏はケージフリー卵へ？ 国内外の養鶏アニマルウェルフェア（AW）動向

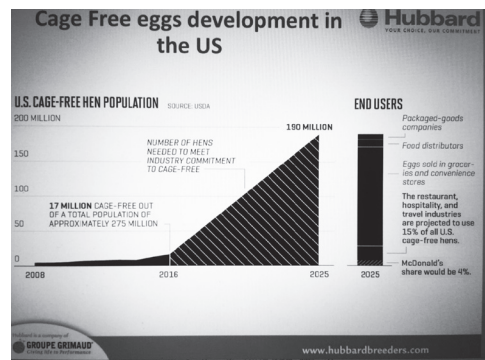
(株)イシイ代表取締役社長  
竹内正博

## (1) 世界

世界的にアニマルウェルフェア（AW）の課題は、肉用鶏では長期飼育向きの鶏種（Slow Grower品種＝SG）、採卵鶏ではケージフリー卵（Cage Free Egg＝CFE）へと変わりつつあるように感じる。日本国内の肉用鶏では、SGは地鶏や銘柄鶏などに該当すると思われる。2017年6月12日から14日にポルトガルで開催された育種会社主催のフォーラム（2nd Hubbard Premium Forum）に、筆者は日本から肉用鶏生産者、設備関係者ら11名とともに参加した。会議参加者数は27カ国から165名と予想以上に多かった。日本からの参加者が多い主な理由は、高病原性鳥インフルエンザ発生国からの肉用赤鶏の輸入禁止に関する解禁情報の収集、SGの動向調査にあったようだ。

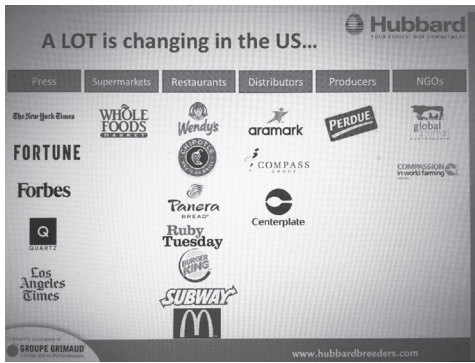
## (2) 米国における採卵鶏のCFEと肉用鶏のSG

このフォーラムで育種会社代表が強調した話は、下記のスライド1（米国採卵鶏CFEの成長）とスライド



スライド1 米国採卵鶏Cage Free eggの成長（出所:育種会社）

2（米国内肉用鶏におけるSGを進める企業と団体等）についてである。スライド1について、マクドナルドは2015年9月、米国とカナダで2025年までにCFEに切り替えると発表していた。2025年までにスーパーと外食産業等が自社で使用または販売する卵をCFEにすると言明したために、CFEが急速に伸びると予測されている。パッケージ（CFEの約3%）、卸業者（4%）、スーパー（44%）、レストラン等（15%）、マクドナルド（4%）等のエンドユーザー需要



スライド2 米国内用鶏におけるSGを進める企業と団体(出所:育種会社)

を合計すると、2025年のケージフリー卵の市場占有率は米国総飼養羽数の約70% (1・9億羽÷2・75億羽) に成長すると予測されている。CFE市場占有率が、今後9年間に6% (0・17億羽÷2・75億羽) から70%にも急増することになる。この短い期間に2億羽をケージフリー飼養に移行させるのは困難であるが、米国の採卵企業の生き残る道はスーパーと外食産業等の要望にどのように対応するかによると思われる。今後10年間に、採卵鶏AWの凄まじい嵐が米国採卵業界を襲おう

としているといっても過言ではないだろうか。

一方、スライド2にある自然食品高級スーパーのWhole Foods(WF)は、2016年3月、肉用鶏の鶏種をSGに切り替えると発表した。全店舗で販売する鶏肉(米国のブロイラー生産量の3%に相当する年間2・77億羽)は、成長の早い、Fast Grower (FG) 品種からSGに2024年までに切り替わることになる。驚いたことに今年6月、ネット通販最大のAmazonが、137億ドル(1・6兆円)でWF(12月決算)を買収すると発表した。手続きの完了は第二四半期中となる見込みである。また、スライド2にある全米4位のブロイラー生産企業(日本と同等羽数に近い年間約7億羽のブロイラーを処理)であるPurdueも、大手企業の中で唯一SGの飼育試験に取り組んでいる。

欧州連合(EU)のAW対応については、採卵鶏と肉用鶏のAW動向を比較すると、採卵鶏が肉用鶏より10年近く進んでいると思われる。EU理事会指令(1999年改訂)によつて従来型採卵ケージは2012年に禁止された。同様に、EUのブ

ロイラー・AW理事会指令(2007年に合意)は2010年に実施されている。EU採卵鶏AW理事会指令合意の8年後、EUブロイラーAW理事会指令が合意されている。指令施行面では、EU採卵鶏の猶予期間は13年も必要だったが、ブロイラーでは3年間しかなかった。

### (3) 採卵鶏のAWに関する実証調査事業

一方、国内では採卵鶏のAWに関する実証調査事業を、2017年度から2019年度までの3年間にわたつて実施することになっている。採卵鶏のAWの推進を図るため、AW対応鶏舎に関する実証調査を実施し、採卵鶏の飼養管理指針改定のための検討および改善策等を加えたモデルの作成、提示を行うのが事業目的である。推進委員の筆者も参加した、推進委員会および専門委員会の合同会議が6月27日に開催された。この事業について報告をしたい。

#### 事業の成果目標と直接目標

合同会議で配布された資料に、達成目標が成果目標と直接目標として次のように記されている。「成果目

標として、AWは、畜産における世界的な課題として検討が進められており、わが国でも農場内におけるAWの向上を目的に『AWの考え方に対応した家畜の飼養管理指針』の普及が図られているが、今後、採卵鶏の国際獣疫事務局(OIE)規約が制定された際には、国際基準との整合性を考え、採卵鶏の飼養管理指針の改定に向けた検討や、さらなるAWの推進が必要となる。そこで、わが国の気候風土環境下におけるAW対応鶏舎で実証調査を行い、採卵鶏の飼養管理の実態に即した科学的知見を蓄積し、『採卵鶏のAW対応鶏舎実証調査報告書』を取りまとめるとともに、その中で『AWに対応した飼養管理の改善策を付加した鶏舎モデル』等を提示することで、飼養管理指針改定のための検討に必要な科学的知見等を提供するとともに、今後の採卵鶏のAW向上に関する取り組みの推進を図る」

直接目標は次の通りである。「①採卵鶏のAW対応鶏舎実証調査報告書を作成するため、AW対応鶏舎で収集した基礎データの取りまとめ(1件)およびAW対応鶏舎で収集した科学的データの取りまとめ(1

件)を行う。②国内における採卵鶏のAWに関する状況やAW対応鶏舎等に関する情報収集を行うため、国内における採卵鶏のAW情報収集調査を5回実施する。③今後のAWの動向に大きな影響を与える欧米諸国のAWの検討状況や飼養管理の実態等の情報収集を行うため、海外における採卵鶏のAW情報収集調査を2回実施する」

OIEについて述べると、2013年の第81回OIE総会で、AWと肉用鶏生産方式のOIE規約が採択されている。同様にAWと肉牛と乳牛生産方式規約も採択済みであり、豚生産方式規約は現在作業中となっている。一番難しい採卵鶏生産方式も2016年11月に第1回アドホックグループ(ワーキンググループの分科会)がAWと採卵鶏規約の検討を開始した。筆者が把握している流れでは、AWと採卵鶏生産方式規約の一次案が2018年5月のOIE総会に提出される。その後二次案が2018年10月に検討され、2019年5月の総会で最終案が採択見込みとなっている。畜産分野のAWで最後になる採卵鶏生産方式のOIE規約は、2020年の東京五輪・

パラリンピックには間に合うようである。

### 海外における採卵鶏のAW情報収集調査

今年米国、来年は欧州で海外AW情報収集調査が計画されている。2017年の米国調査日程の中で、United Egg Producers (UEP) 訪問も予定されている。筆者にとってUEP訪問は今年で3回目になる。

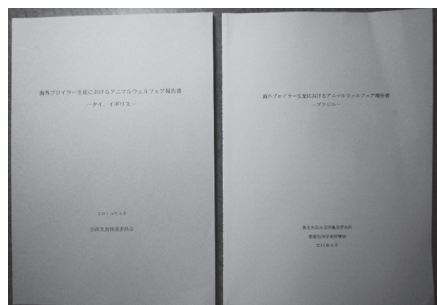
過去において、第1回目のUEP訪問は2011年8月30日にデモイン市で開かれたUEP地域説明会にオブザーバー参加し、鶏卵生産国家基準のための連邦政府への請願書に関するUEP・HSSUS合意経過を聞いた時だった。UEPのCEOの印象に残った言葉は「AWは消費者問題でなく、政治問題である(クラウスUEP議長)。UEP理事会で賛成20対反対10により承認された。これは生き残るために必要な業界合意である」(ジーン・グレゴリーCEO)チャッド・グレゴリー氏の父親)。第2回目の訪問は2013年6月26日、UEP事務所のチャッド・グレゴリーCEOを訪問して、エッ

グビルの連邦法は可決されるのか否決されるのかについて聞いた時だった。同様に印象に残ったグレゴリーCEOの言葉は、約3時間の意見交換が終わる頃に「連邦法成立の可能性は何%ですか?」と質問をした後、「2週間前の連邦法成立可能性は70~75%であったが、今は1~2%になっている」。つまり、エッグビル成立の可能性がなくなったことを示唆したのである。

今年9月にお会いしたら、チャッド・グレゴリーUEP会長兼CEOに、米国の採卵鶏業界は2025年にCFE市場70%に向けて進んでいるのだろうか?と質問してみた。今から楽しみにしている。

### (4) タイ・英国・ブラジル・米国のAWとプロイラー生産実態調査

今から5年前の2012年に国産食鳥推進委員会の予算でタイと英国に、東北大学大学院農学研究科家畜福祉学の7社支援企業の予算でブラジルに、2013年に国産食鳥推進委員会の予算で米国に、筆者はAWとプロイラー生産実態調査に同行する機会を得た。調査報告書(資料1



資料1:海外プロイラー生産におけるAW調査報告書(2013年、一タイ・イギリス-国産食鳥推進委員会、一ブラジル-東北大学大学院農学研究科家畜福祉学寄附講座)



資料2:AW含む米国における食鳥検査制度等調査報告書(2013年、国産食鳥推進委員会)

と2)は食鳥協会関係者に配布され、調査報告会が2012年11月に東京と鹿児島で開催された。

アニマルウェルフェア調査企画案

2011年12月14日

株式会社イシイ 竹内正博

目的：一般社団法人日本食鳥協会と会員事業者にとって、アニマルウェルフェアへの準備の参考のための海外チキン事業者の実態調査

実施時期：2012年春～夏

調査機関：東北大学大学院農学研究科家畜福祉学寄附講座

調査内容：

- (1)アニマルウェルフェアは国産チキン生産事業者とチキン・調製品輸入業者にプラスかマイナスか？
- (2)アニマルウェルフェアは国産チキン生産事業者とチキン・調製品輸入業者にどのような影響を及ぼすか？そして、事業者は準備をどのように行えば良いか？
- (3)欧米の国産チキン生産事業者とチキン・調製品輸入事業者はどのようにアニマルウェルフェアに対応しているのか？

を感じる。海外調査を行った5年前と比較して、AWの課題は大きく変わりつつあるので、国内肉用鶏と採卵鶏関係者も世界のAW動向を改めて調査し、世界の流れに対応して欲しいと思っている。

同時期、2013年には第81回OIE総会で、AWと肉用鶏生産方式のOIE規約が採択されている。始まりは、2011年12月に開かれた国産食鳥推進委員会（阿部壮介委員長）役員会での筆者の調査企画提案であった。

(5)まとめ

世界的にAWの課題は、肉用鶏では長期飼育向きの鶏種（Slow Grower品種＝SG）、採卵鶏ではケージフリー卵（Cage Free Egg＝CFE）に変わってきているように感じる。